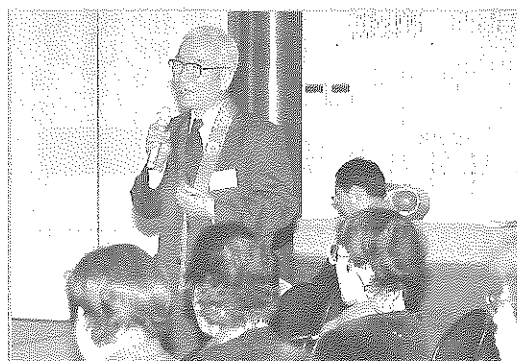


浄土真宗本願寺派東京教区南組 大田区萩中1-11-24 善永寺内 TEL.3739-5641



班ごとの話し合いの様子



話し合い後の発表

第四期 「南組連続研修会」はじまる



南組組長

高輪 真澄

昨年九月より第四期の南組連続研修会(連研)が始まりました。現在四十三名の皆さんが参加されています。毎回、おつとめ・ひとくち法話・仏教讃歌の練習・話題提供のお話の後、少数の班に分かれて、テーマに沿った話し合いがもたれています。この話し合いによって、

「こう思っているのは私だけじゃないんだ」「みんなともに参加しているのだ」という一体感が生まれてきています。

さあ今からでもまだ間に合います。私たちと一緒にみ教えを深めていきましょう。

連研とは 何か？

連研とは、二年間で十二回の法座に参加して、自身で持っている疑問や、人生についてみんなと話し合いながら、み教えを深めていく研修会です。そして修了後は門徒推進員となっていただき、各ご寺院の門徒の中心になって活躍してもらいたいという願いがあります。今回は過去三回の反省に立って次の事柄に工夫してみました。

- 一、多くのお寺から参加していただけるように、案内を行いました。
- 二、毎回のテーマを工夫しています。
- 三、初めてのかたでもわかりやすいように、おつとめや仏教讃歌の練習、入門講座、ひとくち法話などを取り入れています。
- 四、連研のための組研究会を事前に実施し、テーマや運営の仕方を十分に議論しました。
- 五、若手のスタッフにも活躍していただいています。

第一回目は九月四日、善永寺本堂にて開講式並びに研修会を二時より五時まで開催致しました。第二回目は十月九日に南組仏教壮年講座とあわせて行う予定でしたが、あいにく台風の通過のため開催できませんでした。第三回目は十二月十一日。第四回目を二月十九日に開催しました。また第二回目の代わりに三月五日に開催予定です。



真光寺住職 多田 恵章師 によるお話し (於 善永寺)

連 研 日 程 表

2005 年

	開 催 日	時 間	会 場	備 考
第5回	4月16日(土)	14:00~17:00	善永寺	
第6回	6月18日(土)	14:00~17:00	善永寺	
第7回	9月 3日(土)	14:00~17:00	善永寺	
第8回	10月 8日(土)	18:00~20:30	築地別院	仏教壮年講座を兼ねる
第9回	12月 3日(土)	14:00~17:00	善永寺	

2006 年

	開 催 日	時 間	会 場	備 考
第10回	2月11日(土)	14:00~17:00	善永寺	
第11回	4月 1日(土)	14:00~17:00	善永寺	
第12回	6月17日(土)	14:00~17:00	築地別院	修了式

総代研修会

『私とお寺』

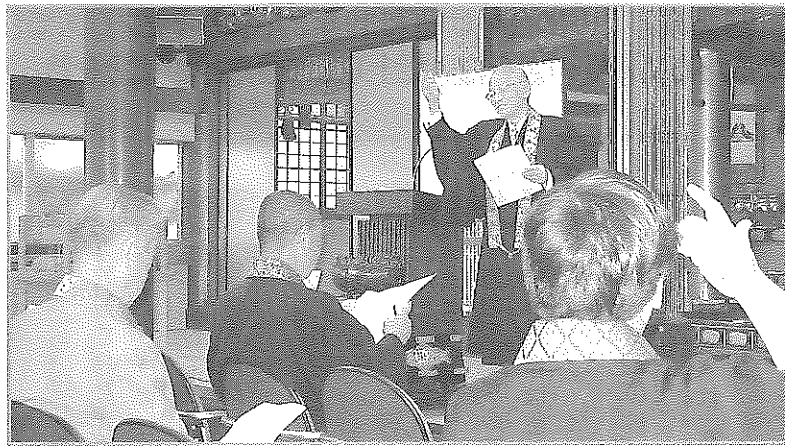
浄興寺住職 田ノ倉亮爾師

まず、お寺とは仏像を安置し僧尼が住む場所をいい、インド・中国・日本を通じて法要儀式を営みつつ悟りを得るための仏道修行を行う場所でありました。

しかし、浄土真宗のお寺になりますと、だいぶ様相が変わってくるということ、明確に自覚しなければなりません。

我々は本願名号を聞く信心によって救われます。だから仏道修行の場所ではなく、聞法の場というふうになつてきたわけですね。これが浄土真宗のお寺です。

一方、他宗のお寺も含めて、現代人がお寺をどう受け取っているかというご意見を聞きますと、三つばかりあります。一つは法要儀式を営む場所であるというもの。第二は葬式法事を営む場所だということ。そ



門徒としての私は、上に述べたような受け取り方をあながちに否定するのではないが、まず第一に、お寺を聞法の道場と見る親鸞聖人、蓮如上人の根本的立場に立ち返るべきではなからうか、ということなのです。

仏法聴聞しつつ、聞名の信心をいただくことが決定的に重要であります。その後は、現実生活においてお念仏申しつつ、報恩行として多くの人々に真宗のみ教えを伝えていくことになるわけです。私は人生の目的というのは報恩行だと思えます。真宗のみ教えを伝えていく教化伝道活動の拠点としてお寺を活用していくことが大切なのではないでしょうか。

ここで教化伝道活動のポイントを三つばかり取り上げました。

一つは、現代の切実な社会問題を含めつつ語る。たとえば、差別問題、靖国問題、環境問題など絡めながら、真宗の信心を仏法聴聞していくということが大切です。

第二は、高齢者、障害者等に対す

る布教。ビハラの活動なんかがあるのです。

第三には、いかに青少年をお寺にご縁を結ぶようにするかという工夫。

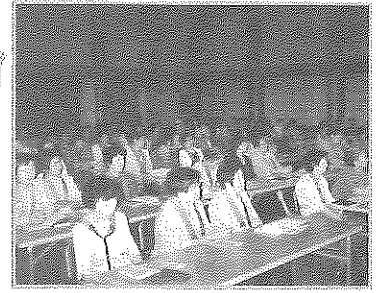
こうした現実問題に取り組みながら仏法聴聞してゆく。お寺はこうした活動の拠点としてあるべきだと私は思います。それが『私とお寺』というテーマに対する真宗の考え方であります。

最後に、とにかく仏法聴聞をし、お寺に参つて下さい。法座、報恩講をはじめとするお寺の年間恒例法要や各種の法座に参加することが大切です。仏法聴聞を怠りなく実践することが総代さんの課題であると思います。同時に、お寺の維持運営管理に関して住職・坊守さんと密接に協調しながら寺院運営に心を砕いていただきたい。この二つのことを特にお願い申し上げます。

れから、お墓ないし納骨堂を運営管理する場所であるということです。

さて今度は『私』が入ってきます。浄土真宗に私がどう関わっていくか。

南組仏婦十周年記念大会



記念講演

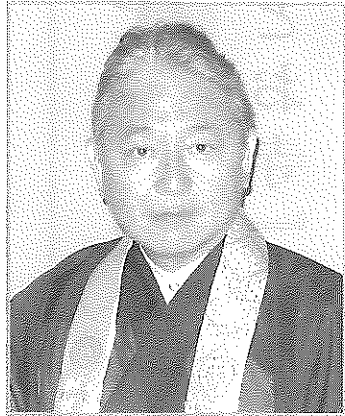
「いのちみつめて」

兵庫教区 善教寺副住職
結城 思聞 師

●ご講師紹介●

結城思聞(ゆうき しもん) / 松倉悦郎(まつくら えつろう)
1946年1月24日、埼玉県生まれ。1968年、早稲田大学を卒業後、株式会社フジテレビジョンにアナウンサーとして入社。1994年に「得度」、結城思聞の名で僧侶の道に専念している。

逸見政孝との出会いは昭和39年、大学のキャンパスでした。アナウンサーになるために青雲の志を抱いて上京してきたということを熱っぽく語っておりました。



逸見の癌の手術後、彼の容態が良いのをあらかじめ確認して、ある日曜日に病室を訪れました。本当に短い時間だったんですが、その短い会話で私は大切なことに気付かせていただきました。逸見がこつこつと話を話してくれました。「はい」「不思議だよな。俺は手術が終わって、「はい」で自分の声で目を覚ましたとばかり思っていたんだけど、娘が言うには「パパ、それは違うわよ。執刀された先生が何度も何度も逸見さん手術が終わりましたよ。無事成功しましたよ。早く目を開けてください」と呼びかけてくださって、ようやくパパは、はいって返事をしたのよ。」「あつ、これって浄土真宗の南无阿弥陀仏と同じことなんだな。」

南无阿弥陀仏という称名念仏は、阿弥陀様の私たち衆生への呼びかけでございます。法蔵菩薩は「十方の衆生が必ず往生できるという安心ができるまでは私は仏にはならない」と誓願を立てられました。そして永い時間をかけて、その誓願をひとつひとつ成就されたお姿が浄土真宗のご本尊、阿弥陀如来ですね。ですから南无阿弥陀仏というお名号は、私たちが必ず往生できる方法を発見してくださいという証拠を、私たち衆生に分かりやすく告知してくださいとお姿です。

当時、私は中央仏教学院の通信教育の二年生でした。月に二回、築地本願寺で勉強していたんですが、どうもこの浄土真宗というものが心に響かなかったんですね。この逸見の言葉で、今まで入り口でつまづいていたものがふと楽になったような気がいたしました。この病室でのひととき、それが私と浄土真宗の初めての本格的な出会いだったと言えましょう。

私は言葉を話し、聞くことを生業にしています。しかし逸見政孝の最後の言葉、「あー、うー」というこの言葉をどうしても聞き分けることができなかつた。これが私の中で負の部分となつて残っていたんです。この話のある所でしましたら、ビハールをやっておられる大阪の副住職、女性の方でしたけれども、こんなことを言うてくださいました。

「あー、うーというのは「ありがとう」、「うれしい」という意味。こういう風に解釈されたらどうですか。」

この言葉で私は非常に気が楽になりました。

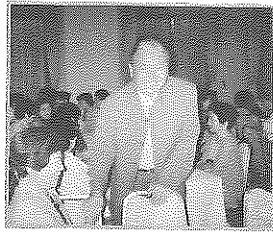
友人を代表して弔辞を読むように言われたのですが、弔辞の筆は遅々として進みませんでした。とうとう夜が明けてしまったのです。そこで私は筆を置いて、途中からは彼の遺影に向かって自分の思いの文を自分の言葉で語りかけようと思いました。

「三十年間世話になりっぱなしでしたが、これからのおつきあいは俱会二処でと心から願っています。」

この様子がテレビを通してお茶の間に放映されました。たくさん、特に若い女性が多かったです。お手紙を頂戴いたしました。皆様に平仮名で「くえいっしょ」と書かれていました。

「松倉さんの弔辞を聞いていて、最後の最後に「くえいっしょ」という言葉が出てきました。とても美しい響きを持つ言葉なので、こういう字を書くのか、どういう意味があるのか広辞苑を引いたんですが出ていませんでした。教えてください。」

俱会二処は仏説阿弥陀経の二節です。



▲ 懇親会の様子



▼ 感謝状の贈呈

「舍利弗、衆生間かんもの、まさに発願してかの国に生ぜんと願ふべし。ゆゑはいかん。かくのごときの諸上善人とともに一所に会することを得ればなり。(舍利弗よ、このようなお浄土のありさまを聞いたなら、ぜひともその国に生まれたいと願うがよい。そのわけは、すぐれた菩薩たちとともに同じところ集うことができるからである。)」

つまり、私たちは先立つた方とはもう会えないけれども、これからのおつきあいは再び相まみえる世界、お浄土で今まで通り仲良くしようという意味を込めて俱会三処と言ったんです。

この手紙を見て思ったんですけれども、今の若い人は宗教というとすぐにオカルティックなものに走ってしまう。決してそうではないんです。ただ仏教と付き合う術を知らない。だから私たちが年長者がその取っ掛かりを作ってやる。これが大切なんだということを私はこの手紙からしみじみと感じました。

浄土真宗では布教使さんが必ずと言って良いほど「聴聞が大切です」とおっしゃいます。「聴

南組仏教婦人連盟設立十周年にあたり

と「聞」はどぢらも「きく」という字ですが、これに親鸞聖人が左訓をされているんです。「ゆるされてきく、信じてきく」。教行信証の行巻には「ういう風に左訓がされている。それから化身土巻になります」とゆりてきく」。これも「許されてきく」と同じような意味だとお思いになつてよい問いがあつて、許されてお聴かせに預かるとき、私の思慮分別、はからいを超えた御法が聴こえてくる。これが聴。そして聞というのはそのまま

■ 設立の趣旨

宗門が進める基幹運動は「念仏の声を世界に子や孫に」のスローガンの下、いかに浄土真宗のみ教えを相続していくかが大きなテーマであります。日々の生活の中でお念仏を伝える力として、仏教婦人への期待は非常に大きなものがあります。理想としてはすべての寺院に仏教婦人会が結成されることが望ましいのですが、諸般の事情から結成が難しい寺もあります。また現に組織を有しているながら教区に登録していない寺もあり、これらを巻き込んだのより強力な仏婦運動を推進する必要があります。

■ 設立の経緯

基幹運動を推進するにあたり、強力な担い手となる教化団体の一つが仏教婦人会であります。一九九〇年初頭、教区では基幹運動推進のために形態も整えられ、着実に歩を進めつつある時期でした。仏教婦人も堅実な活動を推進していましたが、より発展させたいとの願いから各寺院へ婦人会の設立を働きかけるとともに組連盟の設立が図られました。

を聞かせて頂くということだと思つたんです。

本願寺の第三代覚如上人のご長男、存覚上人が『持名鈔』という御文を書いておられますが、その中に「生死をはなれて仏果にいたらんこと、いままさしくこれときなり」という言葉があります。今が「とき」でございます。どうぞ皆さん、しっかりとお聴聞をしていただきたいと思ひます。

〔二〇〇四(平成十六)年六月二十五日
築地別院 参加 百十名〕

一九九三年二月の教区基幹運動推進合同協議会に於いてこの案件が取り上げられました。当時の北條組長・多田相談員と協議を重ね、同年三月四日に組企画委員会を開催。同十一日、真光寺にて各寺院仏婦代表者による設立準備会を発足し、六月十八日、最徳寺にて第二回仏婦連盟総会が開催されました。参加寺院は十三ヶ寺。一〇三名が参加いたしました。記念講演は栃木北組常圓寺前住職の佐竹竹城師に「仏教婦人と浄土真宗」の講題をお願いいたしました。

■ これからの課題

設立より十年が経過しましたが、各寺院の行事等においては強力な活動体でありながら、社会に向けてのアピール・働きかけが極めて乏しいのではないのでしょうか。組連盟として社会に対し何かを発信していくという意欲が大切です。

連盟の活動を寺院間の共通認識として育てながら、「今何ができるか」を考える時期に来ています。「ほとけの子らを育てます」の願いを強く進めていただきたいと思います。

西教寺住職 上島 昌彦

南組 団体参拝 善光寺と木曾を訪ねる旅

第一日は善光寺参

拝です。本堂内陣拝観の折に体験したのが「お戒壇巡り」。本堂床下の暗闇をたどり、鍵に触れたら極楽往生できると言われている戒壇巡りです。暗闇を右手で壁に触りながら右へ右へと歩くのです。真の闇です。そっと歩くと前の人と離れ、不安がわく。急ぐと前の



親鸞さまの前で(善光寺)

人につまづきそうになる。阿弥陀様のことを考えながら歩きました。やがて「あった、あった」の音が次々聞こえてくる。そして私もしっかりと鍵を握りました。

心をこめて握りました。

次に本願寺長野別院に御参拝し、御法話をお

聴きました。

お庭の八重桜が見事でした。パ

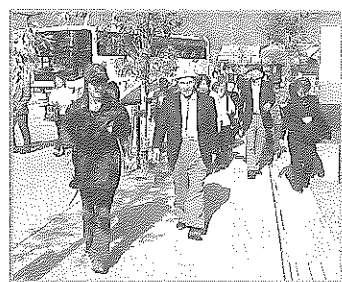


長野別院にて



スに乗って城下町松代へ。町を歩くと、学校帰りの子供たちが元気よく「こんにちには」と声をかけて通り過ぎました。気持ち良く真田宝物館、真田邸、文武学校と見学して歩きました。大本営を松代に移す計画で造った地下壕です。岩盤が固いこの地に掘った地下壕ですが、今は五百メートル公開しています。これだけのものを掘るために多くの人の力と犠牲があったことを考えると、胸が痛かったです。

順な気候で花々が早く咲きました。二日目のあんずの里は大王わさび農場に変更することになりました。わさび農場に着くと、まず、わさびソフトを買い求めて、ソフトを片手に汗を拭きながらの散策。これも旅ならではの楽しみの一つ。おいしい！続いて国宝に指定されている松本城です。天守閣は五層六階。急な階段を登り詰めたあと、天守閣最上階から眺める市街地と周辺の山々の眺めは素晴らしい！帰りに赤い橋を渡って振り返り、松本城を眺めると、桜とともにひときわ見事でした。



そこに生活が営まれているお店が並んでいるのです。従って皆様の手にはおみやげの袋が増えていくのです。次に寄ったのは飯田水引工芸館です。水引のかかったのし袋も並んでいます。五重の塔、おみこし、おひな様、鶴や蝶など美術工芸品の見事さ、短冊、色紙、造花、髪留め、ブローチなどきれいな小物、すべて水引の美術品です。見事な美術品を鑑賞して心豊かになり、

次は高遠の桜ですが、この陽気では葉桜だろうと思ひ期待しませんでした。とにかくバスで高遠城跡公園まで登ります。花盛りの頃はこんなにスムーズに登れないそうです。山を下りるバスの車窓からは家々の庭の桜が見事でした。宿泊地への道中も桜、花もも、花みずき、果ては花蘇芳。右に左に花々を満喫することができ、心が弾みました。

三日目は妻籠宿の散策。この日も気温が高く、栗ソフトクリームに飛びつきました。妻籠を歩くと石畳の道の両側には格子のある古風な家が並んでいます。徹底して景観が保存されており、

帰路につきました。車窓からチューリップ、芝桜、桜、花もも、梨の花々を眺めました。元気に仏様と花を訪ねる旅ができた幸せを感じつつ東京に向かいました。幸せな旅を有り難うございました。

真光寺門徒 吉本 蓄枝

〔二〇〇四(平成十六)年四月二十一日〜二十三日) 長野・木曾方面 参加 三十四名〕

次回の団参は、「春の四國・瀬戸内。お念仏の旅」です。四月十九日〜二十一日の三日間、是非ともご参加下さい。お申し込み・お問い合わせは、お手次ぎのお寺へお願いいたします。

念仏奉仕団に参加して



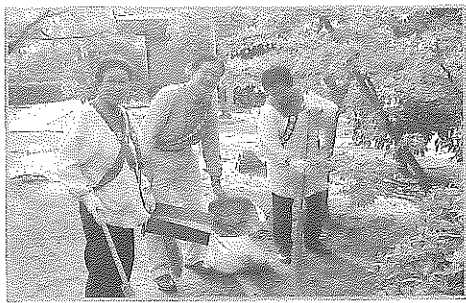
総御堂に集合

京都の御本山と大谷本廟へは今まで何度も参詣したことがありましたが、この度は南組念仏奉仕団の一員として上山させていただきました。

十月二十五日、妹と一緒に京都へ向かい、先に大谷本廟の参拝を済ませてから集合場所の総御堂に無事到着しました。そして南組の念仏奉仕団に合流し、全国から結集した大勢の奉仕団とともにいよいよ第一日目の奉仕活動の開始となりました。



まず、国宝の書院対面所(鴻の間)で抹茶の接待を受けた後、南能舞台(重文)や白書院・北能舞台(国宝)、虎溪の庭(特別名勝)などを見学し、豪壮にして華麗な桃山文化を堪能いたしました。それから滴翠園の池に建つ三層けらぶぎの楼閣建築である国宝『飛雲閣』の拝観をしました。写真や映像で見かけたことのない実際の飛雲閣を目のあたりにして、言葉で表現することができないくらい感激しました。

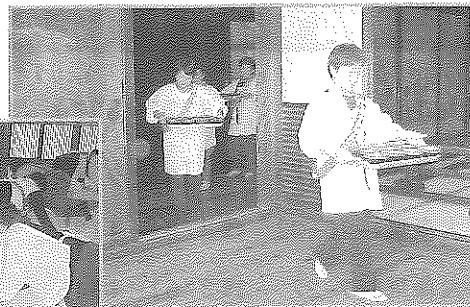


ご本山のお庭で

次に、身支度を整え、百華苑の清掃にとりかかりました。初めに見る百華苑のすばらしい庭園風景に感嘆しながら、竹箒で秋真最中の

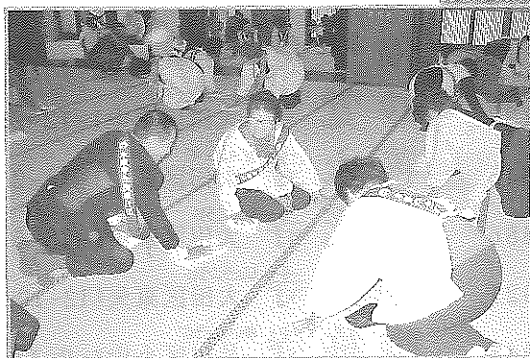
お庭に落ちている枯葉を掃き集めました。あつという間に清掃の時間も過ぎ、大勢の奉仕団の一致協力した働きできれいななった百華苑のお庭を、再びしみじみと眺めさせていただきました。

宿泊の緑風荘では、南組奉仕団全員で夕食をともしながら親交を深めさせていただきました。今日一日、久しぶりの満足感とともにグツスリ眠ることができました。



お台所の手伝いも

翌朝は雨の降る中お晨朝にお参りし、総御堂いっばいに響き渡るお念仏に感動のひと時を過ごしました。二日目の作業の前に、総御堂の階段で各団体毎にご門主様との記念撮影が行われました。



総御堂の畳ふき

引き続きその大修復中の御影堂の屋根工事現場を見学しましたが、これもまた大修復中というご縁でしか会えない貴重な体験でした。その後、御法話を聴聞し、各団体・個人の表彰があり念仏奉仕団の全日程も無事終了しました。

最後に、難しいこのようなご縁を与えて下さった南組念仏奉仕団に感謝するとともに、南組の組長さまはじめ、皆さまに大変お世話になりましたこと厚く御礼申し上げます。

この日は雨のため清掃作業は、総御堂の畳や回廊・階段の雑巾での乾拭き作業でした。そしてさらに平成大修復中の御影堂の廊下の乾拭き作業に移り

ましたが、薄暗い中を手探りで皆さんと一緒に力をふりしぼって奉仕いたしました。

唯称寺門徒 沢登トシ子

〔二〇〇四年平成十六年十月二十五日〜二十六日〕
京都 西本願寺 参加 二十四名

お 知 ら せ

本願寺では、一九七三年（昭和四八）の親鸞聖人御誕生八〇〇年・立教開宗七五〇年慶讃法要をご縁として、仏さまのみ教えに遇いえた喜びを多くの人たちに分かちあう運動として、「このよろこびを人々に」をスローガンのもとに「たすけあい運動」を実施してまいりました。

支援先といたしまして、当初より東南アジアの難民救済や、日本国際ボランティアセンター、日本赤十字社、日本ユニセフ協会などをはじめ、本願寺関係の社会福祉施設や、さらに突発的な災害に対する見舞金として国際的にも被災地支援にお届けさせていただいております。

今後さらに、「人権擁護・平和・環境保護問題」に視点を置き、継続的な支援活動をしてまいります。どうぞ、この「たすけあい運動」の趣旨にご賛同いただき、ご協力下さいますようお願いいたします。

スマトラ島沖地震災害義援金について

インドネシアのスマトラ島沖で2004年12月26日午前8時（現地時間）に発生した地震による津波により、インドネシア、スリランカ、インド、タイなどで多大な被害が発生し、多くの犠牲者が出ています。

本願寺といたしましては、被災地の一日も早い復興を願い「たすけあい運動募金」にて、「スマトラ島沖地震災害義援金」の受付を行うことといたしました。

何卒ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

記

- 1、募金の名称 スマトラ島沖地震災害義援金
- 2、受付口座番号
郵便振替 01000-4-69957
加入者名 たすけあい募金
※通信欄に「スマトラ義援金」と記入ください
- 3、受付期間 2005(平成17)年3月31日まで
- 4、問い合わせ先
浄土真宗本願寺派宗務所 伝道社会部
〒600-8501
京都市下京区堀川通花屋町下ル本願寺門前町
電話075-371-5181(代表)

南細に所属する浄土真宗本願寺派(お西)のお寺です

西光寺	さいこうじ 品川区大井4-22-16	☎ 3777-6070	延徳寺	えんとくじ 大田区萩中1-12-17	☎ 3732-1472
最徳寺	さいとくじ 大田区大森北3-18-25	☎ 3761-6811	福称寺	ふくしょうじ 大田区萩中1-12-20	☎ 3738-1720
徳浄寺	とくじょうじ 大田区大森東1-16-22	☎ 3761-4127	妙覚寺	みょうかくじ 大田区萩中1-12-29	☎ 3738-3091
厳正寺	ごんしょうじ 大田区大森東3-7-27	☎ 3761-4945	善永寺	ぜんえいじ 大田区萩中1-11-24	☎ 3739-5641
久宝寺	きゅうほうじ 大田区本羽田3-17-1	☎ 3742-0886	真光寺	しんこうじ 大田区萩中1-13-6	☎ 3731-5644
海岸寺	かいがんじ 大田区本羽田3-17-6	☎ 3742-0921	浄興寺	じょうこうじ 大田区東矢口2-10-9	☎ 3759-8673
福泉寺	ふくせんじ 大田区萩中3-27-10	☎ 3742-2048	唯称寺	ゆいしょうじ 品川区小山4-9-15	☎ 3782-2486
光教寺	こうきょうじ 大田区中央4-35-3	☎ 3771-9408	宗導寺	しゅうどうじ 目黒区目黒本町6-19-3	☎ 3712-6811
専浄寺	せんじょうじ 世田谷区等々力6-7-10	☎ 3701-4753	西教寺	さいきょうじ 品川区豊町1-8-12	☎ 3781-6154
報身寺	ほうしんじ 大田区萩中1-11-16	☎ 3738-0870	善照寺	ぜんしょうじ 大田区南馬込4-9-11	☎ 3771-8700
正覚寺	しょうかくじ 大田区萩中1-13-13	☎ 3731-9212	永正教会	えいしょうきょうかい 目黒区鷹番2-17-5	☎ 3714-0767